

シンガポール視察報告 ～地下空間を有効活用した都市開発～

Report of a Visit to Singapore - Urban Development That Effectively Utilizes Underground Space

福本大輔¹

Daisuke FUKUMOTO

1 はじめに

本稿は、2023年11月1日～4日にシンガポールにおいて開催された第18回ACUUS (Associated Research Centers for the Urban Underground Space) 国際会議の概要と周辺地区の視察内容を報告するものである。

2 第18回ACUUS国際会議

ACUUSは、世界各国の都市地下空間に関する調査研究機関や専門家を会員とする国際的NGOであり、国際会議が概ね2年に一度開催されている。今回の「ACUUS 2023 Singapore」では、世界中の地下に関する専門家約500名がシンガポールに集まった。

日本では、都市みらい推進機構に事務局が置かれている「都市地下空間活用研究会」が組織会員となっており、今回は岸井隆幸会長を団長とし、国土交通省やデベロッパー、建設コンサルタントなど14名からなる派遣団を構成し、当研究所からは筆者が参加した(写真-1)。

筆者は、“Research regarding formulation of guide-lines for underground usage associated with urban development”と題した論文を発表し、都市開発と連携した地下利用ガイドラインのあり方についての意見交換を行った。

なお、今回の総会では、岸井会長にフェローの称号が授与され、当研究所前会長である故黒川洸先生(前地下研

会長)に名誉会員の称号が授与された。

3 シンガポールにおける最新の都市開発事情

(1) プンゴルデジタル地区

プンゴル地区では、2020年1月からスマートシティPDD (Punggol Digital District) の建設を開始し、自動運転のバスやライドヘイリング、宅配ロボ等を積極的に導入し、自家用車に依存しない生活を目指している。地区内では、古くから運転者不在の自動運転走行の循環型交通システム(LRT)が運行されている(写真-2)。



写真-2 PDDの将来パネル前の派遣団(左)と自動運転走行の新交通システム(LRT)の路線図(右)

(2) テンガ地区

テンガ地区(Tengah's Park District)は、軍事訓練場を再開発し、シンガポールで初めて車道を完全に地下化した中心街を計画している。

地区内の住宅からMRTの駅に徒歩でアクセスできるようにし、自転車道を地区全体に配置するとともに、地下に道路や駐車場、物流ネットワークを整備するなど地下インフラの整備に注力する計画となっている(写真-3)。



写真-3 地下を含む面的な大規模開発の様子(左)と整備中の高架MRTの様子(右)



写真-1 日本の派遣団(左)と発表時の筆者(右)

¹ 東北事務所次長、都市地域・環境部門 担当部門長兼グループマネジャー